九州運輸局メールマガジン 平成24年6月21日 第172号 ~九州の明日を拓く運輸と観光~

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/

目次

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報(6月13日~6月19日掲載分)
  - · 各種情報
- 2 現場リポート
  - ・クルーズ人口の拡大に向けて (九州クルーズ振興協議会総会と海事振興セミナーの同時開催)
  - ・「めざせ!海技者セミナー in FUKUOKA」を開催しました
- 3 九州運輸局セミナー
  - 1 九州運輸局ホームページアップ情報 (6月13日~6月19日掲載分)

《入札契約情報》

契約結果に係る情報の公表

(競争入札4月分及び5月分 随意契約 24年5月分)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list.html#KEIYAKU\_KEKKA

企画競争実施予定の公表(6/15)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou\_120615.pdf 入札結果の公表

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/nyusatsu\_kekka/nyusatsu20120615.pdf 企画競争結果の公表(平成24年6月7日分まで)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list.html#KIKAKU\_KEKKA

## 《行政処分状況》

一般乗合旅客自動車運送事業者の行政処分状況(平成24年5月分)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/noriai/noriai24.htm

一般貸切旅客自動車運送事業者の行政処分状況(平成24年5月分)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/kasikiri/kasikiri24.htm

一般乗用旅客自動車運送事業者の行政処分状況(平成24年5月分)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/jyouyou/jyouyou24.htm

一般貨物自動車運送事業者の行政処分状況(過積載を除く)(平成24年5月分)

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/KAMOTU/pdf/kamotu24\_05.pdf

一般貨物自動車運送事業者の行政処分状況(過積載に限る)(平成24年5月分) http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/KAMOTU/pdf/kasekisai24\_05.pdf

### 2 現場リポート

### 【クルーズ人口の拡大に向けて】

~ 九州クルーズ振興協議会総会と海事振興セミナーの同時開催~

平成24年6月4日(月)に「平成24年度九州クルーズ振興協議会総会」を九州運輸局において開催しました。

本協議会は、九州圏のクルーズ振興を図ることにより、九州全体の地域振興に寄与することを目的として設立されており、平成 15 年 11 月の発足以来、クルーズ客船の歓迎セレモニーや市民の船内見学会、さらにはシンポジウム開催などの地道な活動により、外国クルーズ客船をはじめ九州各港へのクルーズ客船の入港は着実に増加しました。

しかし、昨年は震災や原発事故の風評被害により、九州における外国クルーズ客船の寄港隻数が大幅に減少しました。そこで、九州運輸局、地方自治体及び交通・観光関係事業者が協働して、韓国・中国において風評被害払拭のためのキャンペーン等を実施したところ、昨年夏頃から外国クルーズ客船の寄港が再開され、本年の寄港予定は、過去最高であった一昨年の実績を上回る185隻が見込まれており、また、6月からは13万トンクラスの大型クルーズ船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」も博多港、長崎港を寄港地とするクルーズを展開するといった状況の中で平成24年度総会を開催しました。

総会当日は、会員約70名参加のもと、田中会長(JR九州株式会社相談役) 九州運輸局安藤次長の挨拶のあと、事務局より、コスタ・クルーズ社の中国支店 幹部に対して九州観光の魅力を伝える説明会や意見交換会を実施するなどの平成 23年度の事業報告及び収支報告があり承認されました。

また、平成24年度の事業計画としてパンフレット作成や「オール・アジア・クルーズ・コンベンション2012」への出展協力などが決定され、情報交換として、国土交通省海事局外航課角国際海上輸送企画官による「我が国のクルーズの動向について」の説明がありました。

今年度は、本協議会と九州運輸振興センターとの共催によるセミナーが総会の 二部として開催され、講師として国際臨海開発研究センターの柴崎研究主幹をお 招きして「クルーズ客船観光の特性と寄港地の魅力度評価の試み」と題した講演 が行われました。セミナーには、約140名が参加し、今後の活動に生かそうと熱 心に聴講され、有意義な総会となりました。

今後とも、九州ならではの観光資源などを最大限に活用し、クルーズ客船の誘

致活動等を行い、九州におけるクルーズ振興を図るために引き続き活動して参ります。

当日の模様は、次のURLからご覧になれます。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\_magazine/pdf/photo/photo\_172-2.pdf

# 【九州クルーズ振興協議会事務局】

.....

「めざせ!海技者セミナー in FUKUOKA」を開催しました 去る6月15日、九州運輸局は福岡合同庁舎新館(海技試験場ほか)において、「めざせ!海技者セミナー in FUKUOKA」を開催しました。

現在、外航海運や内航海運では、約3万人の日本人船員が働いています。外航海運は我が国の貿易量の99%を輸送し、また、内航海運においても年間9,200万人の旅客と国内貨物の32%が海上輸送されており、四面環海の我が国において、重要な交通・輸送手段となっています。一方、船員の労働環境面では、50歳以上の内航船員が51%を占めるなど高齢化が進んでおり、若年船員をはじめとした船員の確保・育成を図ることが喫緊の課題となっています。

こうしたところから、九州運輸局では、ハローワーク業務と併せて、船員の確保・育成のため様々な支援事業を展開しており、本セミナーもその一つとして開催したものです。なお、同様なセミナーは、今年度、九州地区も含め全国7地区で開催が予定されています。

本セミナーでは、九州地区船員対策連絡協議会()の協賛のもと、企業説明会や就職面接会 就職セミナー(講習会)、九州運輸局による海技資格等相談の3会場(コーナー)に分けて実施し、水産系高等学校3校(36名)、海上技術学校・短期大学校3校(79名)、水産大学校1校(18名)、その他(3名)の合計136名と海運事業者22社が参加しました。

企業説明会等では、参加者が企業毎に設置された「ブース」を積極的に訪問し、 各社の担当者から会社の概要や船舶の就航状況などの説明を熱心に聞き入っていました。また、講習会では、元航海士の方が講師となり、実体験を基にした内航船の船内の様子や職場の実態などを分かり易く説明していただきました。

なお、当日は参加者アンケートを実施しましたが、その概要は次のとおりです。

- ・各企業担当者の説明が詳しく分かりやすかった。(高校生(男性))
- ・会社の説明だけではなく、船乗りとして大切なことなど、とても良い話が聞けた。(高校生(男性))
- ・非常に意味のある経験をしました。この経験を今後に生かせるよう努力したい と思います。(高校生(男性))
- ・人と人とのコミュニケーションが一番大切というのがよく分かった。 (高校生(男性))
- ・とても役に立ちました。もう少し全体の時間を長くしてもらえると助かります。 (20代、大学生(女性))
- ・さまざまな企業から説明を聞かせていただき、異なる点も多いことなど、大変 勉強になりました(20代、大学生(男性))
- ・昨年参加して採用しました。学生にとっては良い機会と思います。(参加企業)
- ・今後は離職している船員などももっと多く参加するよう期待しています。 (参加企業)

九州運輸局では、船員の確保・育成のための支援事業を積極的に実施していきます。

#### 九州地区船員対策連絡協議会

内航海運が抱えている船員労働力の不足問題に対応するため、九州地方海運組合連合会及び全国内航タンカー海運組合西部支部並びに九州運輸局により構成された協議会。

当日の模様は、次のURLからご覧になれます。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\_magazine/pdf/photo/photo\_172.pdf

## 【海事振興部 船員労政課】

# 3 九州運輸局セミナー

九州運輸局の各課から業務内容等を紹介するコーナーです。 今回は、鉄道部 計画課です。

鉄道部計画課では、鉄軌道に係る許認可や補助などの業務を行っていますが、喫 緊の課題は電力需給に関する問題です。

昨年3月に発生した東日本大震災後の電力需給に関し、今夏については「電力 需給に関する検討会合 エネルギー・環境会議」において、九州電力管内では、 平成24年7月2日(月)~9月7日(金)の平日(8月13日~15日を除く)9:0 0~20:00 の間、平成22年夏季における使用最大電力の値(kw)等を基準の目安として、90%を超えない水準に抑制するよう決定されました。

ただし、鉄軌道については、節電によりライフライン機能等の維持に支障がでる場合には、機能維持への支障が生じない範囲で自主的に目標を設定し実施する こと等

#### 具体的には、

- ・12 時~15 時:削減率10%、その他の時間帯:削減率0%
- ・ローカル路線 片道3本以下/時:削減率0%、片道4~5本/時:削減率3%程度 (9時~12時、15時~20時は0%)

とされたところです。

これを受けて、5月18日付で本省通達が発出され、鉄道部では九州内の鉄軌道18事業者に対し利用者の利便を考慮しつつ、各社の事情も勘案して節電目標を達成するよう指示をし、各社では、列車の運行に関する設備・機能を除く事務・間接部門(オフィス部門等)については、全時間帯において最大限の節電に努めるほか、列車の編成両数を削減し運行するなど、様々な節電に対しての取組が予定されています。

また、同会議では計画停電は実施しないことを原則とするものの、大規模な電源の 脱落等、万が一に備えて、計画停電の準備を進めておくこととされたため、鉄道部か ら各鉄軌道事業者に、緩和措置も含めて九州電力と連絡を密にし、鉄軌道のライフラ イン機能の維持に努めるよう指示を行いました。

今夏における電力需給は予断を許さず、計画停電が実施されないためには、一人ひとりの節電への取組が大事です。通常の生活機能を維持するためにも、皆様のご理解とご協力をお願いします。

# 【鉄道部 計画課】

不安定感いっぱいの生活に追われていると何か確かなものが欲しくなります。 新聞記事でふと眼に留まったのが山岡鉄舟についての本でした。

明治維新の立役者の一人ということくらいの知識しかなかったのですが、地 元の佐賀を治めていたこともあるそうで興味が一段と増したのです。

清貧とも評される生活で物への執着もなかったようです。

我が家は引っ越しのたびに物を減らす努力していますが、それでもトラック 1 台分は必要です。断捨離をテーマにした本も売れていますし、災害時の非常持ち出し袋に何を詰めたらいいのかという議論もちまたでは盛んになっています。

自分にとって何が必要で、何が核となるのか・・・。山岡鉄舟には遠く及び ませんが考えるきっかけをもらった雨の休日でした。 いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。 編集部では、運輸と観光行政に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報 等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿くだ さい。

九州運輸局メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\_magazine/top.html 九州運輸局メールマガジン編集部(九州運輸局総務部内)

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel: 092-472-2312 Fax: 092-471-7192